

第 15 回 向陽学府小中一体校開校準備委員会 会議概要

1	開催日時	令和 7 年 3 月 24 日（月）
2	開催場所	磐田市役所西庁舎 3 階 302～303 会議室
3	出席者（向陽学府小中一体校開校準備委員）	
	学識経験者	元校長 元向笠地区長
	地区代表	向笠地区長 大藤地区長 岩田地区長
	保護者代表	向陽中学校 P T A 代表者 大藤小学校 P T A 代表者 向笠小学校 P T A 代表者 大藤こども園 P T A 代表者 向笠幼稚園 P T A 代表者 岩田こども園保護者代表者
	学校代表	向陽中学校長 大藤小学校長 向笠小学校長 岩田小学校長
4	事務局	学校づくり整備課学府一体校グループ長 ほか 1 名

会議概要

1 委員長挨拶

こんばんは。御出席頂きありがとうございます。3 月は卒業の月ということで、向陽中学校、向笠小学校の卒業式に出席をさせていただきました。本当に素晴らしい式で、中学ではサプライズがありまして、びっくりしましたが、子供たちの合唱も素晴らしかったです。同じく向笠小も、本当に心を一つにした、お別れの歌の合唱がありました。本当にジーンとくる場面がありました。中学校 3 年間、小学校 6 年間の素晴らしいものがありました。結構寒かったんですが、あっという間に時間が過ぎました。また、教職員、市の職員の方々は、人事異動の時期です。この中に異動を予定される方もいらっしゃるんじゃないかなと思います。ぜひ向陽学府のことを忘れずに、必要に応じてアドバイスを頂きたい。一体校につきまして、いよいよあと 1 年となりました。閉校も開校もあと 1 年。もう既に竣工式が 2 月 14 日、その日に内覧会があるとか。閉校式につきましては、3 月の 14 日から 15 日に行われる予定だということです。4 月はまだ分かりませんが開校式があるということで、ある程度スケジュール的なものが入ってきました。さらに今日、議会が無事終わったじゃないかなという前提で言わせていただきますが、例えばここでいろいろと話題になった交通安全で土木費の予算があるのです。ちょっと細かいことは分かりませんので、三つに分かれていまして、交通安全、通学、交通安全についての整備については 8,600 万円ぐらい。磐田市の予算です。通学路の整備につきましては約 1 億円近く。そん

な中で新しい向陽学府に伴う整備がどの程度使われるか分かりませんが、さらに向陽学府の新たな学校づくりという今年度からそういう予算もあります。52 億円ぐらい。実はその中で、ほとんど 46 億円は、建物に関わる費用ですが、注目するところは、土地購入費というのがあります。5,000 万円ぐらい。つまり、敷地外のところを買う。いわゆる駐車場等の用地も、そういうのがもう予算化されましたということを言いたい。さらに備品購入、新しい学校の備品がいろいろ必要になっていますが、そういうものが、8,500 万円ぐらいついています。新しい学校のため、たくさんの税金で予算化されましたよということ言いたい。

今日は今年度最後です。人事異動以外でもいろいろな事情で替わる方もいらっしゃるかなと思いますが、ぜひ来年につながる会議にしていきたいと思います。今日は少し話合いの時間を持ちながら、それぞれが思っていること、あと 1 年でやらなければならないことを出していただきながら、4 月以降の準備会議準備委員会につなげていきたいと思います。ぜひ充実した会議になることをお願いして、挨拶にかえさせていただきます。以上です。

2 議事

(委員長)

それでは議事に入りたいと思います。事務局からまず説明をしていただきたいと思います。

(事務局)

今年度の開校準備委員会においても多くのことを協議頂いて、校章の決定もできました。本当にありがとうございます。まだ今後、地域や保護者の方と協議しながら詳細を決定していかななくてはいけないことも多々ありますけれども、いよいよ残り 1 年となるところまで来られたことに本当に感謝申し上げます。

本日ですけれども、少しいつもの席とは違って、地区ごとに席を固めさせていただきました。この後ですけれども、地区ごとにそれぞれの立場から学校、保護者の地区を代表されるお立場の方から感じられている課題とか、今後残りの 1 年に向けてのところについて御協議を頂きたいと思います。必要な事項が幾つかあるかと思いますが、そういったところをまた次年度の準備委員会でも取上げていきたいと思いますが、恐らく、令和 8 年開校後も協議を続けていかななくてはいけないことが出てくるだろうと思っています。そういったところを精査しながら進めていきたいと思っています。御手元に協議するためのメモを置かせていただきました。こちらで大きく視点を上げさせていただきました。通学に関すること、地域とのつながりに関すること、閉校する小学校に関すること、令和 8 年度からの学校生活に関すること、大きく四つの視点を挙げさせていただきましたが、なかなかその内容には収まらない点もあるかと思いますが、その他というところも記載をさせていただいています。今から、各グループでお時間を取らせていただきますので、机の移動もしていただいて各グループで協議をしていただき、それぞれのグループで話題となったことを共有させていただきたいと思います。また各グループでの協議の様子を

報告頂きたいと思います。よろしくお願いします。

～ グループごとに協議 ～

(事務局)

それでは各地区で出された課題について、ここで共有したいと思います。席はそのままです。簡単に前のほうに記録をまとめていきたいと思います。その中で委員長を中心に何かこう話題にしていく部分であるとか、次年度への引継ぎの部分について考えていきたいと思っております。

ではまず、大藤地区から、今出た話題のところを少し教えていただければと思います。よろしくお願いします。

(委員)

大藤です。お願いします。通学に関することは、今まで要望を聞きながら積み上げてきているので、大方理解しているのではないかという意見も出されましたが、中には負担金の問題だとか、そういうところではいろんな意見が出ているので、特に要望を上をしっかり上げていって、そこを集約して、今後も継続しながら一つのラインを決めていくしかないじゃないかっていう話が出ました。通学に関することと言えば、タブレットの話も出てきて、今タブレットを持ち帰るようになってはいるんですけど、かばんの中にタブレットを入れるともうそれで半分以上なっちゃう。ここで国語算数が持ち帰りましようとなっているから、もうパンクしてしまう。ほかに宿題を出されると困るとタブレット手で持って帰る子供たちがいたりして、そこでも持って帰って、不注意で落としてしまっって破損してしまったら、持ち出しの申請書でいくと、負担は保護者とかってなっているから、ちょっとそれはどうなのかなという意見が保護者の中では出ているんじゃないかっていうところで、タブレットの持ち帰りとか、教科書の持ち帰りも含めてタブレットの使い方についてはもう一度検討が必要じゃないかっていう話も出たりしました。もう一つは令和8年度からの学校生活に関係することで、小学校6年生で卒業したら卒業式やるのか、1年生を迎える場合どうなるのか、そういうところも、もっと学校側が発信していかないと、何かそういうところの学校側の発信がまだ足りないなというふうな話もしました。こども園の話も出ていて、やはり今大藤では、こども園と小学校がすぐ隣にあって、小学校とのつながりがすごくスムーズなんで、小学校に入ったときに、スーッと入っていける。そういうところも少し考えていただきたいという話が出ました。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。つづいてよろしく願いいたします。

(委員)

向笠地区でお願いします。通学に関するものではば時間は使ったかなという感じです。まずは、通学に関していろいろと考えることがあるのですけれども、結局学校だったり保護者、地域が通学バスだったり歩きだったりすることに関して、もろもろの準備というも

のを始められるタイミングがまだつかめないところがあります。例えば、歩きの子がいるので見守りのこと、バスを利用する子がいるので乗降場所での安全管理のこと。それを誰がどういう形でやっていくのか、どんなところに点呼をお願いしていくのか、そういう動きをしたいんだけど、やはり通学について最終的にこうなりますというのが示されてからでないと動けない部分がやっぱりある。来年度入って、早いうちにバスなのか歩きなのかという希望が本小学校の地域ではあると思うんですけど、その辺りの希望をとるときにも、まだこの点については検討中ですか、これは今後決まってくるのか、そういうものがあるとバスにしようか歩きにしようかとか考えるときにも迷ってしまう部分につながってしまうんじゃないかなとなる。やはり通学に関して、決まってくる時期を早めに持っていくのがその後のいろんな対応にもつながってくるんじゃないかなと思います。特に同じ通学班の中でも歩きが出てきたりする。でもバスに乗るところまで同じ集合場所に子供たちが集まり、そこから徒歩で学校に行くという流れの中で、歩いていくよっていう形でどんどん行ってしまった後に、バスの乗降場所には小さい子しかいないとか、一戸建てでみんな歩いていくのでバスの乗降場所の中には集合しませんでしたと、今までは高学年がニーズを把握したりとか、この子は今日休みだったらこのメンバーがそろったらこれでいけるねとかっていう判断ができたものが、小さい子たちだけで果たしてそこはできるんだろうかというような心配も出てきます。そうなってくると、やはり乗り降りが分かるようなシステムのＩＣカードとかを持っていて、保護者もうちの子が乗り降りしたなって分かるとか、学校もこの子たちが今バス出たんだと分かるシステムが導入されると良いんじゃないかなって話もあります。結局新しい学校ができるときのバスのお金もかかるというところも出てきたりとか、プールを移動してやりますということが出てきたりした中で、何かやはりこの一体校の良さ、売りというものをやっぱり探していきたいので、例えばバスのシステムが本当に安心ですよ、安全ですよなんていうところが固まってくると良いのではないかなと思いました。今、朝の見守りをやってくださったボランティアの皆さんも、自分が見ているところの子たちがみんなバスとかなればその乗降場所でいろいろ見ることもできるんじゃないかなと思いますが、分かれたりすると、やはり歩いている子たちを今までどおり横断歩道とか交差点で見ることになってくるんじゃないかなと思います。あとは、過去からですね、通学路に関しては道路の拡張だったり、安全設備の要望をしてきた部分が叶ってきている部分も確かにあるので、そこら辺はありがたいと思っていますが、まだまだほかにも、安全に関して手をつけたいところはあるなっていうのはあります。あとは令和８年度からの学校生活については、新しい学校ができるので、今の日本を見たときに教育の中で問題になっているいじめや不登校だったり、そういったところにばさっとメスを入れていくような思い切った教育内容とか、そんなことができていいんじゃないかなって話も出ています。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、またよろしくお願いいたします。

(委 員)

岩田地区です。よろしくお願いします。通学に関することについてですが岩田地区は全員バス通学ということに小学生がなりますので、乗降場所でのボランティアについては自治会と連携しながら、朝の見守りをお願いしているところです。一方、朝の登校後の見守りというんですかね、バスがピストンで来るということで少し早めに来る子供たちをどうやって面倒見るかっていうところをボランティアでやるんだとしたら、それを早く募集したりだとか、それから、令和8年度のスタート時では、バスのロータリーも完成していないものですから、降りてから学校の昇降口まで行くにあたっての警備員など、先ほどの安心安全じゃないですけど安全に子供たちが学校に入るっていうところを検討していただき、もし警備員などをつけていただければよかったら、そういったところを予算立てしてもらったりして進めてもらえると売りになるのではないかなと思います。地域や市で見守っているような体制ができるといいかなと思っております。あと、一部中学生が自転車で通学する子もおりますのでそういったところで電動アシストの自転車なんかについても検討していただけると助かるということでした。地域のつながりについてですが、どこの学校もそうだと思いますが、地区にお願いしているところですが地区長さんと話して、土日で行っている地域の活動については、基本地区で募集をかけたり声をかけていくけど、向陽小になっていくので、向陽小全体の学区でも呼びかけができるような形をとっていきたい。教科や総合学習、それから交流体験などについても、学校からやることを整理して要望を出していただければ、協力してくださるということをお話ししてくださいました。一方、地域連携室の使い方については、まだ模索中ではないかということなので、それについてはもう少しを市教委からねやり方の整理をしてやり方を示していただければ、具体的に話ができるんじゃないかなと思っております。閉校に関することについては、今地域ごとそれぞれ閉校のやり方が別だと思いますが、岩田地区は実行委員さんを中心に進めてくださっているので、形が整いつつあります。令和8年度からの学校生活ですが、やはり小中一体校になるのでこの交流を進めていきたいという意見が出てきました。特に行事、合唱コンクールや運動会、体育大会、これはいいものをそれぞれ、特に中学校中心でやっていますので、いいものを見せ合ったりだとか、上級生が下級生を面倒見るような、そんな体制ができるといいかなと思っております。あとプールの問題ですけど、やはり向陽学府にはプールがないってということで、来年度、屋内プールについても検討されていくってということなので、これもスムーズにするためにバスの確保等には力を注いでもらいたいということです。その他、学府全体のことでないですが、部活動の地域移行についても、心配されている保護者がいるので、PRとか体制をもう少しはっきりしていくと、安心して今後課外活動についてどういうふうな方法があるかっていうのを分かっていくんじゃないかなと思います。ホームページにありますだけでなく何か発信できる体制をもうちょっと整えていただきたいということでした。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。今、幾つか御意見を出していただきました。簡単であります

が、前のほうに記録をさせていただきましたので、少しここから、もう少し説明が必要とかですね、そういうとこあれば、協議の時間を取りたいと思います。委員長お願いします。

(委員長)

もうちょっと聞いてみたいとか、もっとこういうのもあるんじゃないかなとか、どんなことでもいいんですけども、限られた時間ですけども、発言をお願いしたいなと思います。

私から一つ、まだ決まってないときに検討しますっていうのはいいんですが、できればいつまでに決定しますのでか、踏み込んだようなより具体的な答え方をしていただけると、もうちょっと待たないかなかなあとか、そういう気持ちになる。

(委員)

一点だけいいですか。岩田地区のほうから電動アシスト自転車が出ましたけれども、現在、電動アシスト自転車で登校している子がおりますので、駄目になっているわけではない。高額なものになるので、相談という形でいいですよって形になっていますので、これから増えても全然問題ないです。

(委員)

電動アシスト自転車の場合に、セキュリティーの関係で、バッテリー取られたりっていうのが結構高校のほうなんかであって、電動を使う場合は置場所とか配慮があったりしたんです。高校のほうでは。なので、増えてきたときにはやっぱりその安心な場所に置けるっていうのも必要じゃないかなっていう話です。

(委員長)

あと令和8年度の新しい小中一体校ができたときの教育課程ですね。それできるのは多分3月になってぎりぎりになっちゃうのですか。そういう細かなところが具体化する前に、基本的な何かっていうのはやっぱり考えていかないかんと思うので、そういう部分について途中経過でもいいですけども、こういう教育を行いたいというのを聞ける範囲で聞ける場があるといいかなというのが一つ。あと、この前も言ったのですが、課題はもう変えられませんが、中の細かなところはいろんな配慮とかできる。数十年使う施設ですので、やはり最新とは言いませんがそれに近い、そういうような施設機能をそろえておかないと、世の中で進歩したり、変わっていきますので。トイレ一つにしても、水道の蛇口一つにしても、あるいは障害者等配慮を必要とする子供たちのためのスロープなり、そういう部分が果たしてどういうふうにできるのかっていうのもあるところで、施設の関係の方に出向いていただいて、説明または意見交換ができればいいなと思います。ここにはなかったので話させていただきました。まだ少し、15分ぐらいはいろいろと御意見等伺う時間があります。

(委員)

3分下さい。私、日本の教育をすごく憂えていて、例えば国連からすると、日本の教育、当たり前前に私たちが受けている教育って虐待って言われているんです。教育虐待って何かそうなのかって言ったら、学力の差がある全体に対して1人の先生が教える。これがも

う虐待と国連で言っています。だから、ほかの国を見たときにそういう教育をもうしてないってことなんですよね。例えば、さらに日本は担任が1人で、全ての子供たちを把握している。ここが折り合いつかなかったら、もう学校行きたくないってなるんですよ。それは気持ちめちゃくちゃ分かるんですよ。本当に積み重なってきていて、日本のこの現状、自己肯定感がこんなに低い子供たちが、出来上がっているって私は正直思っている。この教育そのものを変えてほしいと思っているんですよ。だから私はここにいるんですけど、せっかくこういう大きいことをやる、変えるんだったらそこから見直していったほうがいいなって思う。国連が何をもちて日本の教育を虐待と言っているのか精査して、それを変えていくために答えを誰かが持っている状態で挑んでほしいくらいに思っている。ですけど、その問題点は誰か提起として持っていますか。何て言うんですかね、私は一保護者なので、私が学校から抜ければいいのかなんて思ってできるだけ抜けているんですけど、そうじゃない。私も公教育に期待したい。うちの子を預けたらこれだけ自己肯定感が伸びていって、これだけやる気に満ちあふれてこれだけ自分から日本を変えていきたいと言えるような子が、今どれだけいるでしょうね。それを私たちの世代はたたかてきたほう。同調圧力でやっていて、学力の競争をさせる。例えばオランダだったら競争させること自体が虐待って言っているので、大学は好きなところに行ってもいい。今違うじゃないですか。日本だったら競争させて、どんどん学力の差をつけないといけないからどんどん難しくしていくのですよ。試験の内容をもっと勉強させないといけないとなっている。今の日本の状況がこれだと私は思う。私はそこから私の子供を一刻も早く抜け出させたいと思っています。それに対する答えを持っている方がいればいいんですけど、そうじゃないのだったら明確に答えを持っている専門家とかたくさん日本で頑張って活躍している方たちがいっぱいって、例えば島田市がそういう研修も、前校長が受けていると私は聞いているので、例えばそれを磐田市でも取り入れるとか、スタートの時点でその研修を取り入れた上で始めるとかやっていただきたいなっていうのが私の願いです。頂いた時間、ありがとうございます。

(委員長)

なかなか大きな話で、教育委員会そのものがきちっとしてもらうところがあって、また旧態依然としたところのいいところもあるしね、変えなきゃいけないところもあるし、私教員退職して12年になりますけど、いつの間にか10年たつうちに不登校が2倍になっているとは思わなかった。何でなっちゃったんだろう。そういう流れというか、子供たちが変わったのかよく分かんませんが、ぜひ教育委員会の中でも今言われたようなことも議論していただいてね。少しでも、一体どんなその教育の中身のほうにですね、取り入れていただければありがたいと思います。僕も言ったことすべてに賛成はできませんが、すごく意味のある発言じゃなかったかなと思います。以上です。

(委員)

主任児童委員ということで子供のことを見てきています。その中で本当に今、3地区長ですずっとお話しして、向陽地区で生まれる子供が本当に減っています。向笠地区はここ数年、

11 自治会あって 11 人生まれるか生まれないかみたいな、毎年 3 月にそういう話をするぐらいです。50 人埋まるか埋まらないかっていう年が続いている中で、他から入ってこないと 2 クラスいくかなみたいな話になっちゃうわけです。なので、さっき委員長がお話しされたみたいに、向陽学府一体校になったらこんないい教育ができるこんなに学校だよっていうところがもう少し見えてきたら、私たちも、家が建たれる土地ではないんですけど、空き家とかもよくおっしゃってくださっているんですけど、ここに來たら子育てしやすい地区だよっていうことを新しい学校を基に言える部分があったらいいなと思っているので、その学校の新しい部分がちょっと今の通うところの課題だったりって言うところばかり何となくみんな気にしちゃっていますけれど、子育て家庭が向陽地区の学校に行きたくなくなって移住してきたくなくなるようなところが、何かちょっと出してもらえたらいいかなと思っています。

(委員長)

実は 3 月 6 日に市長さんを招いたあるシンポジウムに同席をさせていただいたんですが、たまたま向陽地区をメインとしたシンポジウムだったんですね。その中に 3 本柱の一つが向陽学府小中一体校だった。いわゆる未来型、全ての学校の小・中学校が一つになる。非常に周りからも注目されているし、あまり例のない試みで、磐田の教育の一つの、それを誇りというか、いいものにしていきたいっていうような意気込みを言っていたいてありがたいなと思ったんです。そういうことですので、ぜひ教育委員会というか、磐田市のほうに、ただ校舎が新しいからいい学校じゃない。やっぱり何がいいのかっていう部分まできちっとこういう所で言っていただけるとありがたい。もう来年の会合になっちゃうので、次年度も是非お願いします。

(事務局)

いろいろな御意見ありがとうございました。私もこの 4 月から携わらせていただく中で、今お話あったように磐田市で初めて学府の小中学校が一つになる形ですので、大いにこう期待できる部分はあるだろうと思っています。ただ自分も教員の立場ですので、今まで、中学校に勤めて小学校に勤めてという中での自分の学校でしか考えられなかった部分を、いかに磐田市の教育の中でそこを飛び越えていけるかっていうところは、令和 8 年からの 1 つ勝負だなということはと思っています。それに向けて、先ほど少し教育課程もお話ありましたけれども、今本当に忙しい時間の合間をぬって、4 小中学校の先生方が集まって令和 8 年からの 9 年間でどうするか、どういうカリキュラムでやっていくかということの協議もしていただいています。もう令和 8 年の日程なんかも頭の中に入れながら進めていただいています。その中で、今磐田に足らない部分であつたりとか、日本の教育に足らない部分を少しでも補完できるような、そういった学校になっていくというところを期待したいと思いますし、そこに向けて力を尽くしていきたいというふうに思っています。こういった意見を頂いたところは大変ありがたかったなということも思っています。また、次年度にそういったところも、生かしていきたいと思っていますし、なかなか私 1 人で教育委員会を動かせる部分ではないものですから、今のこう言った皆さん

の声があるってところが磐田の今の声だっていうところをですね、磐田市の教育だと思っているので、向陽の教育だけじゃないので、磐田市の教育を磐田市教育委員会みんな考えていきたいと思っています。またどうぞよろしくお願いいたします。

そして建設のほうも進んでまいりましたので来年の7月頃には、モデルモデルルームのような形の教室が一つ出来上がります。そこもまた皆さんには見ていただいて、実際の施設なんかについても、工事の担当者をここに招いてですね、説明をしていきたいと思います。自分も、なかなか設計図とか読めないのですけれども、今までの学校とはまたちょっと違ったやはり未来型の学校にはなっていくんだろうなというところはと思っています。それが令和8年になっていくんですけれども、そういったものもまた皆さんと来年度共有をしていきたいと思っています。いろいろな御意見頂きありがとうございました。

では最後に副委員長よろしくお願いいたします。

3 副委員長から

1年間ありがとうございました。今日いろいろグループで話したことによって、課題も見えたと思いますし、あと1年で、どんなことをやらなきゃいけないのかというところがよく分かりました。自分としてはですね、中学校の校長として情報発信というのがこれからすごく大事になるのかなと思っています。課題はたくさんあるんですけども、その課題をいろいろ克服してですね、逆にほかの地域から、うらやましがられるような、そんな学校ができたほうがいいのかなと思います。先ほどちょっと話が出た、カリキュラムのところですけども、小学校中学校の職員研修会を年3回ぐらいやってましてですね、骨組みになるようなところはできてきているんですが、ながふじ学府のほうの様子を聞いたりしていくと、やっぱりその中身の部分というのはやっていく中で試行錯誤しながらだんだんその形ができていくので、1年目からもうできていますのでこれでぱっと行くっていうのはなかなか難しいみたいで、やはり職員の人間関係とか、そういうところから少しずつつくっていくということです。今もうできているところから、手を入れて共有してやっているところです。ですので、ちょっと時間はかかるかもしれませんが、そんな具合で進んでいますので、ご承知おきください。

それから、あと制服です。今年1年、その新制服の検討をやってしまして、3月26日にそれぞれの中学校のホームページに決定した新制服が紹介されますので、また、ホームページ見ていただければと思います。保護者の方にはコドモンで配信されるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。あと向陽学府については、この後またネクタイですね、ネクタイを着用するのか、それともネクタイはなくてもいいのか。その辺からまた、今度は向陽中だけで考えて、御意見頂きながら進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。以上です。